

令和4年度 指定管理者モニタリング結果及び評価シート

評価期間 令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日

施設名称	ふじみ野市立児童センター	所管課	こども・元気健康部子育て支援課
指定管理者名	シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社	施設分類	子育て支援施設
指定期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日	利用料金制導入	なし（指定管理料のみ）
導入年月日	平成25年6月1日	指定回数	3回
施設設置目的	児童に健全な遊び場を提供し、もって児童の健康を増進し、豊かな情操をはぐくむ。また、相互援助活動を実施する中で、地域の子育て支援の向上を図り、地域活動支援、地域子育て世代の交流の場を提供することを目的とする。		
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ふじみ野市立東児童センター ふじみ野市福岡1丁目2番5号フクトピア3階 延床面積1,418㎡ 鉄筋鉄骨コンクリート造 ・ふじみ野市立西児童センター ふじみ野市大井中央1丁目1番1号大井総合支所3階 延床面積987.39㎡ 鉄筋鉄骨コンクリート造 		
管理運営の基本方針	児童福祉法等の関係法令を遵守し、十分に理解したうえで、利用者のニーズに対応した事業の充実、利用促進に努め、施設の効用を最大限に発揮し、利用者へのサービス向上を図る。また、地域の関係機関や団体と連携協力し、地域の実情を踏まえた施設運営に努め、遊びを与えるだけでなく、子どもとともに遊び、遊びを通じて子どもの生きる力を養う。		
指定管理者の主な業務	<ul style="list-style-type: none"> ・健全な遊びの場を提供し、児童の集団及び個別指導を行い、遊具その他設備の利用により児童の体力増進を図る。 ・児童に関係のある組織、機関等との連絡に関する業務。 ・自主事業の実施。乳幼児及び児童の健全育成に必要な活動の実施。ファミリー・サポート・センター事業に関する業務。 		

評価項目

- 【評価基準】
- 5: 目標値以上の結果で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが大きいと評価できる場合
 - 4: 目標値以上の結果で評価できる場合（上記「5」以外）、又は業務等が適切で、期待する水準以上であった場合
 - 3: 業務等が適切で目標値に達している場合、又は業務等が期待する水準どおりであった場合
 - 2: 実施計画に基づく管理運営や事業の実施が目標値又は期待する水準をやや下回る場合
 - 1: 業務等が目標値を大きく下回る場合（改善指導が必要）

1 施設の設置目的の達成に関する取組

施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか	評価
<p>管理運営状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徹底した新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に取り組んだ結果、クラスターを起こすことなく運営することができた。 ・施設の役割や、展開する事業の目的を職員が研修等で理解を深め、創意工夫に基づく効果的な管理運営を図った。 ・公の施設として個人情報保護や各種法令順守の徹底、利用者に公平かつ平等な運営、危機管理意識に基づく健全かつ安全な業務執行に努めた。 	3
<p>区分</p> <p style="text-align: center;">具体的な取組の状況・実績</p>	
<p>指定管理業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中、高校生の居場所作りとして自主学習ができる環境、運動による体力増進が出来る環境、遊びの環境を整え、利用増加に繋がった。なお、中高生利用者数は東児童センターが4,810人、西児童センターが3,152人であり、全国的に見ても上位の実績であった。 ・子育て支援拠点案内（年1回）、ファミサポ通信（年1回）、毎月発行の児童センター便り（各児童センター年間約4,600枚配布）や子ども新聞（年間約7,600枚配布）、毎月更新のホームページ、公共の周知を利用した市報、情報メール、館内掲示で、多くの市民へ積極的な情報の提供に努めた。 ・子育て支援拠点として週3日以上、1日3時間以上の開設をした。また子育て講座を月1回開催した。 拠点人数 東児童センター（火・木・金）154回 5,625人 育児講座 12回 266人 西児童センター（水・金・日）155回 6,425人 育児講座 12回 329人 年間相談件数 東児童センター 37人 西児童センター 60人 ・『ファミリー・サポート・センター』事業において、会員とアドバイザーとの信頼関係を深めるための交流会や相互援助活動に必要な基礎知識を深める講習会を実施した。 基礎講座 年2回（7月・1月）11人 提供会員交流会 年2回（5月・11月）11人 普通救命講習3（9月）10人 クリスマス交流会 年1回（12月）42人 	
<p>自主事業の提案に基づく実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度年間実施計画書に添った事業の実施ができた。 ・利用者増加の取組みとして、乳幼児親子が気軽に参加できる事業や交流できる事業を展開した。小学生対象に体を動かす遊びを積極的に取り入れ、学校学年の枠を越えて交流する場の提供ができた。中学生の居場所となるよう、積極的な声掛けをし、利用しやすい環境を整えた。他にも「こいのぼり」「七夕」「母の日」「父の日」「敬老の日」など季節に添った事業を実施した。 ・『ファミリー・サポート・センター』の自主事業として始めた、児童センター内で預かりを実施する「サポートタイム」は預かり依頼は少なかったが、提供会員からの反響はとて大きく、活動されていない方からも参加への意欲がある連絡が多く入った。 ・コロナ禍で研修等がZoom研修となるが多かったが、児童厚生員などの知識向上や管理運営に必要な研修を積極的に受講した。 ・東児童センターと西児童センター間で定期的に東西会議を開催し、エリアマネージャーやエリア指導員と共に利用者のニーズにあった運営となるよう意見交換を行った。 	
<p>サービス向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症予防対策として、児童センター入口に受付を設置し、検温、健康チェック表記入の確認、手指消毒の声掛けをしたことで、安全安心な運営に取り組んだ。返却された玩具や館内のテーブル、手すりなどの消毒、換気にも注意した。 ・利用簿や利用者カードの登録における個人情報保護は迅速に対応し、施錠できる場所へ保管することで個人情報保護に努めた。 ・年2回利用者アンケート調査を実施した。要望が多かった玩具や図書の購入、また利用者から寄せられた意見要望に寄り添ったことでサービス向上に努めた。 ・『ファミリー・サポート・センター』の周知活動として児童センターを利用する親子へ館内放送で周知したり、各部屋を回り利用者へ直接声をかけて相互援助活動について説明をした。（年間全5回） ・『ファミリー・サポート・センター』の提供会員増加を促すため、社会福祉協議会主催の「地域デビュー講座」や民生委員定例会へ出張し説明を行った。またシルバー人材センターへ主管課を通し提供会員募集のチラシの配布をお願いした。（1,000部） 	

2 指定管理者の健全性

団体の財務状況や組織体制は安定していて、施設管理を継続的、安定的に行うことができるか		評価
外部専門家からの指摘事項の概要	売上高、利益ともに順調に推移。ただし、親会社の動向には注視が必要。	3
その他特記事項		

3 施設の有効活用

施設利用状況	利用区分等	予定（計画・目標） 単位	利用実績 単位	対前年比	年度目標達成率	評価
	乳幼児		21,420 人	24,998 人	129.1%	
小学生		26,350 人	34,705 人	138.4%	131.7%	
中学生		7,700 人	7,962 人	111.8%	103.4%	
大人		20,300 人	25,954 人	132.5%	127.9%	
計		75,770 人	93,619 人	131.6%	123.6%	
(特記事項) 東児童センター 幼児 11,409人 小学生 21,203人 中学生 4,810人 大人 12,455人 計 49,877人 西児童センター 幼児 13,589人 小学生 13,502人 中学生 3,152人 大人 13,499人 計 43,742人 ファミリー・サポート・センター 依頼会員 1,379人 提供会員 165人 両方会員 112人 活動実績 2,166件						
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案		追加事業、未実施事業及びその理由		
	市指定事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ふじみ野市立児童センター条例第4条に規定する業務 ・児童センター指定管理業務仕様書に記載する業務 ・地域子育て支援拠点事業に関する業務 ・施設の利用許可に関する業務 ・施設、設備及び物品の維持管理ならびに軽易な修繕に関する業務 ・埼玉県児童館連絡協議会に関する業務 ・児童センター運営委員会に関する業務 ・ファミリー・サポート・センターに関する業務 ・利用者アンケートの実施 		追加事業	<ul style="list-style-type: none"> ・東西児童センター入口での利用者健康管理業務 ・感染予防対策として館内の消毒作業及び貸出し玩具の消毒作業 ・ワクワク・サクソフォンカルテットコンサート（東児童センター） 	
自主事業	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児事業 【東児】 ママの輪・パパの輪・育児講座・リズム体操 リズム遊び・身長体重測定・親子タイム お話し会・ふれあいタイム 【西児】 親子タイム・育児講座・パパポケット・スマイル お話し会・身長体重測定・リズム体操 ・小学生対象事業 【東児】 子どもオリンピック・学びの種・遊びクラブ 子ども運営委員会・お楽しみ会実行委員会 バルーンアート・一輪車挑戦ボード 【西児】 子ども運営委員会・ジャンプ・せんせいキッズ お祭り実行委員会・バルーンアート ・中学生対象事業（東児・西児） 中学生スポーツタイム・優先タイム・夜間開館 ボランティア活動 ・全来館者対象事業 【東児】 特別イベント（季節の行事・ハロウィン・祭り） 今月シリーズ（制作・ぬり絵・折り紙） チャレンジタイム・縄跳び、こまチャレンジ 【西児】 特別イベント（季節の行事・県民の日・祭り） 今月シリーズ（制作・ぬり絵・折り紙） チャレンジランキング・先生と作ろう ・地域連携事業（東児・西児） 更生保護女性会協力事業（伝承遊び） 英語絵本読み聞かせ ・ファミリー・サポート・センター事業 サポートタイム 		未実施事業	なし		
利用サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児事業では子どもの成長記録として、身長体重の測定や手形足形を取り入れた。 身長体重測定 大きくなったかな・親子タイム・ママの輪0歳・はかってみよう 手形足形取り 親子タイム・育児講座・ママの輪0歳・パパの輪0歳 ・小学生事業は人気の高い「スライム制作」「カライドサイクル制作」「ぶるぶる芳香剤制作」「ミサンガ制作」「プラバン制作」など子ども達の要望を事業に反映し実施した。他にも講師を招いた事業として「陶芸」「ヒップホップ」「夏の習字」「書き初め」「臨床美術制作」、また「交通安全教室」や「防犯安全教室」も行った。 ・事業の質向上の為、事業実施後は担当職員が振り返りをし、記録を残している。 ・今月シリーズは季節の折り紙や制作、ぬり絵、自由画など、誰でも気軽に参加できることで、子ども達の興味関心へ繋げている。ほかにキャラクターぬり絵や持ち帰りぬり絵の配布などサービス向上に努めた。 ぬり絵の配布 東西児童センター 合計約11,000枚 					

3

4 利用者評価

区分	内容	評価
利用者の 要望把握	<p>(1) 利用者要望把握方法 両児童センターにおいて年2回アンケートを実施（6月・12月）</p> <p>(2) 調査、会議等の内容 (実施時期)令和4年6月1日～16日／令和4年12月1日～18日 各館2回実施 (調査方法)窓口にて保護者用・児童用各100枚のアンケートを配布 (調査項目) 保護者対象 ①住所 ②子どもの年齢・学校の内訳 ③来館方法 ④利用頻度 ⑤情報の取得方法 ⑥利用した感想 ⑦来館した印象 ⑧職員の対応 ⑨ファミリー・サポート・センターの認知度 ⑩ファミリー・サポート・センター預かり活動の認知度 ⑪ファミリー・サポート・センター提供会員活動への興味 ⑫参加行事の満足度と感想や要望 ⑬現在の利用方法について ⑭その他の意見や要望 児童対象 ①住所 ②学年 ③利用頻度 ④利用時の満足度 ⑤先生の満足度 ⑥小学生向け事業の認知度 ⑦情報取得方法 ⑧参加行事の満足度 ⑨児童センターは遊びやすいかの質問 ⑩その他置いてほしい玩具や参加希望の行事等</p>	
	<p>(3) 調査、会議等の結果 (回収率) 東児童センター 西児童センター : 6月・12月実施 保護者・児童共に100% 【保護者対象アンケート】 東児童センター ①市内在住 96.5% ③来館方法 車 53.7% ④利用頻度 月1～2回 49.5% ⑥利用した感想 満足・やや満足 96.5% ⑧職員の対応 満足・やや満足 95.5% ⑨ファミリー・サポート・センターの認知度 知っている 85% 西児童センター ①市内在住 91.5% ③来館方法 車 53% ④利用頻度 月1～2回 42% ⑥利用した感想 満足・やや満足 96.5% ⑧職員の対応 満足・やや満足 97% ⑨ファミリー・サポート・センターの認知度 知っている 74% 【児童対象アンケート】 東児童センター ①市内在住 97% ②利用児童 小学低学年 29.5% 小学高学年 53.5% 中学生 16.5% 高校生 0.5% ④利用した感想 とても楽しかった・楽しかった 95% ⑤先生の対応 良い 81% 西児童センター ①市内在住 95% ②利用児童 小学低学年 22.3% 小学高学年 48.7% 中学生 28.9% 高校生 0% ④利用した感想 とても楽しかった・楽しかった 93.4% ⑤先生の対応 良い 75%</p>	
利用者からの 評価・要望・ 苦情等	<p>(1) 良好とする評価 満足度が高い事業 東児童センター：保護者対象 親子タイム、大きくなったかな、りんりんリズム、ママの輪 児童対象 一輪車達成シール、今月シリーズ、子どもオリンピック、お楽しみ会 西児童センター：保護者対象 親子タイム、はかってみよう、レッツダンス 児童対象 今月シリーズ（ぬり絵・壁面）、チャレンジランキング、中高生スポーツタイム</p> <p>利用者からの評価 東児童センター ①児童センターが楽しく遊べる雰囲気です。職員さんも優しく子どもが大好きです。 ②夕方のチャイルドで小学生が退館するルールはすごく良いです。先生達も外に出て見守りしてくれて、安心して子どもを遊びに行かせることができます。 ③お話会の歌がお気に入りになり、家でも良く歌っています。</p> <p>西児童センター ①先生方の雰囲気が優しく温かいので、来ても気持ちよく過ごせます。いつもありがとうございます。 ②交流コーナー（窓口付近）でも安心して遊べる場所ができて良かったです。 ③色々な遊びがあり、遊び方のルールが書いてあるから遊びやすいです。</p>	4
	<p>(2) 苦情・改善等の要望事項 東児童センター ①土日に幼児が楽しめるイベントを増やしてほしい。 ②大人がいる時は小学生用の玩具を幼児にも貸してほしい。 ③入館する時に利用者カードがあるのに、記入する手間がある。</p> <p>西児童センター ①季節の行事にちなんだ絵本コーナーがあると嬉しい。 ②平日は仕事なので土日祝に遊びに来る。平日だと参加できない。予約がなくても楽しめる企画があると嬉しい。 ③土日でも遊戯室で幼児用車やバイクを利用したい。</p> <p>《対応措置》 東児童センター ①毎週土曜日の午後に誰でも参加できる「チャレンジタイム」ミニゲームを開催。年齢別にチャンピオンには賞状をプレゼントした。 ②誤飲などの安全面から幼児用と小学生用と分けて貸出しをしている事を丁寧に伝えた。 ③入館の際に健康チェックシートの記入をお願いしていた。新型コロナウイルス感染症予防の為の対策であることを説明し協力を仰いだ。</p> <p>西児童センター ①図書室の棚に「季節の本コーナー」を作った。 ②特別イベントなど、土日祝に実施する事業を増やした。 ③土日は小学生以上の利用も多い為、貸出しをしていなかったが、土日の10時から12時まで貸出しを実施した。</p>	

5 事業収支

(単位：円)

	指定管理者収支（令和4年度）				市の収支				評価	
	年度計画額		収支実績額		令和4年度決算		令和3年度決算（前年度）			
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額		
①指定管理 業務事業収支	収入	利用料金	0	利用料金	0	歳入	施設使用料	0	施設使用料	0
		事業収入	100,000	事業収入	34,414		行政財産使用料	0	行政財産使用料	0
		指定管理料	62,178,000	指定管理料	63,342,000		国庫支出金	2,140,000	国庫支出金	1,947,000
		雑入	0	雑入	0		県支出金	2,140,000	県支出金	1,947,000
		管理運営費への充当	10,000	管理運営費への充当	0		その他	0	その他	0
		計	62,288,000	計	63,376,414		計	4,280,000	計	3,894,000
	支出	人件費	46,474,000	人件費	46,167,378	歳出	修繕料	0	修繕料	0
		消耗品費	1,510,000	消耗品費	1,835,015		保険料	0	保険料	0
		光熱水費	4,196,000	光熱水費	6,304,442		指定管理料	63,342,000	指定管理料	61,869,000
		委託料	240,000	委託料	434,160		業務委託料	0	業務委託料	0
		賃借料	40,000	賃借料	606,836		土地・建物賃借料	0	土地・建物賃借料	0
		通信費	540,000	通信費	433,313		その他	0	その他	704,000
		保険料	1,100,000	保険料	589,852					
		修繕費	1,000,000	修繕費	127,728					
		事業費（市指定事業）	0	事業費（市指定事業）	0					
		公租公課	0	公租公課	0					
		一般管理費（本社経費等）	7,188,000	一般管理費（本社経費等）	2,142,053					
	計	62,288,000	計	58,640,777	計	63,342,000	計	62,573,000		
	収支	0		4,735,637	差引	△ 59,062,000		△ 58,679,000		
	②自主事業 収支	自主 事業 収支	収入	100,000	収入	34,414				
支出			100,000	支出	40,915					
自主事業収支			0	自主事業収支	△ 6,501					
③収支 ※指定管理 事業+自主事 業（①+②）	収支		0		4,729,136					
④市への 納付金 ※納付金がある施設のみ	市への 納付金	支出	0	支出	0					
⑤最終収支 （③-④）	収支	0		4,729,136						
⑥新型コロナ ウイルス感染 拡大防止に係 る過年度指定 管理料（令和 3年度分）	（収入）市からの給付額		0	（歳入）指定管理者からの返還額		0				
	（支出）市への返還額		0	（歳出）指定管理者への給付額		0				
分析	人件費比率【人件費／指定管理者事業支出】						78.7%			
	事業収支における経営分析			人件費の計画額と実績額の差について、コロナ過により来館者が減小したことに伴い、主に休館日を利用した定期的な全体会議を増やして報連相を日々実施する事で人件費を抑える事ができた。その他の要因については、埼玉県児童館連絡協議会等の会議及び研修等がリモート開催となり、移動時間も無くなった事で人件費が減となった。光熱水費については、コロナ禍の対応に加え光熱費の高騰が要因となっている。賃借料については、前年度の途中よりフクトピアでのLEDのリース料が発生している事が要因となっている。保険料については、コロナ禍による来館者減が要因となっている。						
	一般管理費が、計画額と実績額で異なる理由			指定管理者が同じ東地区放課後児童クラブと児童センターでエリアマネージャーを一人に集約したこと、さらにリモートによる会議や研修を実施したことにより支出を抑制できたことによる。						

6 管理運営全般

※すべて「適」で「3」。「4」・「5」・「否」とする場合は、必ず特記事項欄に理由を記載すること。

区分	確認内容	適否欄	評価
市との連携	1 市への報告、連絡、相談又は協議が適切に行われたか	適	3
	2 市からの指示等に対し適切な対応が図られたか		
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が適正で有効に配置されているか	適	
	配置実績 平日5名以上 土日6名以上 学校休業期間中月曜日から金曜日7人以上 (統括責任者たる所長・所長及び副所長含む)		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
平等利用	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか	適	
	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか		
経理	2 利用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか	適	
	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか		
施設・備品の維持管理	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか	適	
	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に実行されたか		
その他	2 備品は台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか	適	
	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか		
特記事項	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが適切な時期に提出されたか	適	

7 危機管理体制

※すべて「適」で「3」。1箇所でも「否」の場合は「1」。「4」・「5」・「否」とする場合は、必ず特記事項欄に理由を記載すること。

区分	確認内容	適否欄	評価
安全対策	1 危機管理マニュアルが整備されているか	適	3
	2 危機管理マニュアルの内容が職員に周知されているか		
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか		
個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	適	
防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか	適	
	2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		
緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	適	
	2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか		
特記事項			

総合評価

【総合評価】 S:極めて優れている/A:優れている/B:やや優れている/C:適正である/D:努力が必要である/E:改善が必要である

評価項目		評価	総合評価		子育て支援施設
総合評価	施設の設置目的の達成	3	B		
	指定管理者の健全性	3			
	施設の有効活用	3			
	利用者評価	4			
	事業収支	3			
	管理運営全般	3			
	危機管理体制	3			

評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児から中高生まで幅広く利用に繋がるよう、対象に合った事業の実施から遊びにおける環境の整備ができた。特に、中高生世代の利用が少ない児童館も多くある中、東西児童センター共に全国上位の利用者数となるなど、多くの利用に繋げることができた。 ・ 前年度からの課題や、利用者のニーズに鑑みた事業を幅広く柔軟に実施し、前年度に引き続き利用満足度を高水準に維持することができた。 ・ SDGsの取組みとして廃材を利用した制作、利用者のいない時間帯の節電、玩具の修繕などを意識した運営を行うことができた。 ・ 年間事業計画書に沿った事業を実施することができた。また、市報やホームページ、児童センター便り、子ども新聞などを通して事業の周知やPRを行い、前年度と比較しても多くの利用者にサービスを提供することができた。 ・ 年2回の利用者アンケートから出た意見や要望を受け、東西児童センターで情報を共有して検討を行い、玩具の購入や環境を整備することで利用者サービスを向上させることができた。 ・ コロナ禍における感染が職員にあった場合も、すぐに主管課へ報告し必要な人員配置となるよう迅速な対応を心掛け、職員体制を適切に保ちながら運営することができた。 ・ 安全対策として、毎月実施する避難訓練では、いざという時に備えた訓練や振り返りを行い、また小学生以上の夕方の帰宅時間に合わせて屋外で安全旗を使用した安全の見守りを行うなど、利用者の安全を確保し、利用者が安心して利用できる環境を作ることができた。 ・ 個人情報保護に基づき、入退館カード登録に関する個人情報はすぐに鍵のかかる場所で保管するなど、個人情報を適切に管理した。また、職員は個人情報保護研修を受講し、個人情報の保護・管理を徹底することができた。
------	--

	前年度からの課題・改善事項	実施状況	次年度へ向けての目標・取組・改善事項
取組・改善案等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時対応の避難訓練をポスター等で周知し、職員と利用者が一緒に実施することで、利用者側ももしもの時の対応を理解することができるよう改善していく。 ・ 中高生が児童センターを居場所として、今以上に認識していけるよう、運動や遊びだけでなく、自主的なボランティア活動まで援助していける体制を整えていく。 ・ 小学生が児童センターでの遊びや事業を通して、学校とは違った環境で様々な経験ができるよう援助していく。 ・ 『ファミリー・サポート・センター』は登録のある提供会員の意欲が下がらないよう、現在活動から離れている方にも積極的な依頼や連絡を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練において、ホームページや館内ポスターで周知し、利用者にも参加をお願いし実施することができた。避難訓練参加者も増え、たくさんの利用者にいざという時の流れを知ってもらうことができた。 ・ 中高生の居場所づくりとして、事業の充実や図書や勉強できる環境づくりに努めた。また、中高生ボランティア活動への積極的な声掛けで職員との信頼関係が生まれ、色々な場面で活躍できる機会を作ることができた。 ・ 小学生の異年齢や他の学校に通う児童同士が交流できる事業を定期的に実施することで、社会性を育むことができた。 ・ 『ファミリー・サポート・センター』については、活動のない提供会員へ連絡することで、活動の再開や現況を再確認できた。また、コロナ禍における活動についての相談や、会員同士のトラブルにも丁寧に対応し円滑に活動が行われるよう配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども達の声が事業や運営に反映できるよう子ども運営委員会やせんせいキッズ・子ども会議などで子ども達が自由に発言できる場を作りあげていく。 ・ 中高生の居場所として、運動できる場の提供を始め、初めて来館する中高生とも関係性が築けるよう更に積極的に声掛けをしていく。

指定管理者自己評価

(1) 評価期間の取組に対する評価

① サービス向上に向けての取組

- ・前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症予防対策として、入口での手指消毒の声掛け、検温などの健康チェック表や連絡先の記入、館内及び玩具の消毒、換気対策、ソーシャルディスタンスを考え、利用者が安心して利用できる環境を継続した。
- ・館内は密にならないように、目印のテープを貼ったり、毎朝各部屋や交流スペース、遊戯室にジョイントマットを敷きソーシャルディスタンスがとれるよう遊び場を明確化した。
- ・コロナ禍以前は事業の電話予約は実施していなかったが、利用者が参加しやすい環境を整えるため電話予約を可とし対応した。
- ・熱中症の予防として、水筒の中身が空になった、また持ってきていない子ども達へ、紙コップを使用した冷水機の供給（職員対応）を行った。
- ・屋外プレイヤード及び遊戯室は熱中症指数チェッカーを使用した暑さ指数（WBGT）による判断を行い、熱中症による危険を未然に防ぐ注意喚起や熱中症予防に努めることができた。誰でも理解できるようプレイヤー入口に顔マークを使用した注意喚起掲示を行った。
- ・図書室に常設している図書を別の部屋でも読めるようにしたり、学習室（西児）や工作室（東児）には辞書や参考書を置いたりすることで、勉強のサポートができる環境を作った。
- ・館内消毒は実施前に館内放送を入れ、玩具の消毒も見える形で行うことで児童センター利用への安心感を伝えることができた。利用者アンケートでもたくさんの感謝の言葉を頂いた。
- ・年2回実施した利用者アンケートの意見や要望に対し、改善策を職員で話し合った。玩具、図書の購入や館内の利用方法、事業内容に意見要望を反映させることで、利用者の利用満足度に繋がった。
- ・ホームページの毎月更新や子育て情報メール、市報等でイベント周知を行うことで、市民の方に速やかに情報を提供できた。
- ・初めて来館した方へ、児童センター便りや子育て支援拠点情報、『ファミリー・サポート・センター』のお知らせなどを渡した。また、丁寧な館内案内を心掛けた。貸出玩具や注意事項、事業ポスターなども見やすい掲示を意識し、利用しやすい環境を作った。
- ・小学生が児童センターに興味を持ち、自ら利用したり事業へ参加できるよう、毎月子ども新聞を発行した。内容には発行月に参加できる事業の周知を始め、人気の玩具、図書の紹介やなぞときクイズなどを載せた。また子ども達が読みやすいように、漢字にはフリガナをふった。各児童センター情報を両面で印刷することで東西児童センター利用に繋がった。両児童センター内での掲示や配布の他、市内の放課後児童クラブや国際交流センターでも配布を行った。（年間約7,600枚配布）
- ・中高生の居場所づくりを意識し、定期的に東西児童センターで話し合いより良い環境作りが出来るよう取り組んできた。「中高生スポーツタイム」は毎週月曜日の夕方、中学生だけが遊戯室を使用できる事業であったが、バスケットボールやバドミントンなどが出来る事を知った中高生の参加が増えたことを受け、火曜日から金曜日17時から18時も同じように中高生の居場所として開放していった。
- ・普段から利用者の声に耳を傾け職員同士で共有する他、また年2回の利用者アンケートであがった意見等を良い形で提供できるように、エリアマネージャーやエリア指導員、東西児童センターで話し合った。
- ・小学生の帰宅時間は夕焼け放送に合わせて放送や声掛けを行った。送り迎えの保護者へも声をかけ子どもとの約束事にずれ違いないように配慮した。また、安全に帰宅できるようフクトピア施設前の十字路（東児）は安全旗による職員2名の見守りを、大井総合支所では駐輪場の見守りを毎日行った。

② 業務の効率化に対する取組

- ・子育て支援課、子育て支援13拠点、フクトピア交流プラザ、大井総合支所、保健センター、発育発達支援センターなどそれぞれの施設や関係各所との連携を心掛けた。
- ・子育て支援拠点では、拠点担当責任者を中心に相談があった時は報告し合うことで切れ目のない支援ができるよう心掛けた。また、難しい相談については、子育て支援センターへその内容を共有し、アドバイスをいただき、より一層の支援充実に努めた。
- ・施設の不具合等はすぐに主管課へ報告をし情報の共有を行った。東児童センターでは空調の不具合等が多かったが、主管課による迅速な対応で安全な提供ができた。また、利用者の怪我や苦情等に関してもすぐに報告を行った。苦情は事が大きくならないよう主管課にアドバイスをいただき細心の注意を払い対応できた。
- ・毎月各施設へフクトピア消防設備等自主点検（東児童センター）、大井総合支所へ自主検査チェック表（西児童センター）を提出している。毎日1日4回、館内安全点検と子ども達が多い時間帯や土日は駐輪場の見回りも実施し、日々安全に気を配り運営した。
- ・入退館システムが導入され、登録されていない方へ新たに登録してもらおう声かけをした。利用者カード登録が増えたことで、怪我や忘れ物等があった際に保護者へ連絡することができた。また利用者が翌日から使用できるように登録内容のシステムへの記録は閉館後すぐに行った。
- ・毎月実施している火災や地震に備えた避難訓練の他、不審者対応、熱中症対応、嘔吐対応などいざというときに職員が対応できるよう訓練を行った。また、内容に沿った動画研修も受講し、動きだけでなく知識としても学んだ。全職員は普通救命講習を3年に1回受講している。
- ・朝礼を開館前に行い、連絡事項や当日の役割分担を出勤職員全員で共通理解できるように努めた。事務連絡は回覧ボックスを設け、出勤時に必ず目を通した。報告、連絡、情報共有ができていて、職員全員が丁寧な利用者対応を行うことができた。
- ・業務や事業は担当を決め仕事の効率化を図った。受付での健康チェックと入館対応、窓口での玩具貸出と玩具、消毒、遊戯室、プレイヤーの見守りなど、時間を決めたローテーションをすることで、様々な視点で子ども達を見守ることができた。
- ・職員は定期的に社内研修用動画を利用し、個人情報保護、リスクマネジメント、発達障害、児童虐待、てんかん、エピペン、SDGsに関する研修などを受講している。また、児童厚生員や子育て支援員研修、発達サポーター研修、所長は全国子ども健全育成リーダー養成セミナーへ参加している。研修を受けることで、利用者からの相談や子ども達の様子への気づきなどさまざまな場面で研修で学んだことを活かすことができた。
- ・館内では実施する事業の周知ポスターや貸出し玩具の提供写真、注意喚起文など必要な情報の提供をしている。また、電池が使われている玩具や、細かいパーツが含まれるものは貸出表への注意書きや窓口の声掛けで誤飲などの注意喚起をした。
- ・『ファミリー・サポート・センター』では提供会員が報告書を提出時に良かった情報や困り事やトラブルなどないか声掛けをしている。丁寧な対応をすることで会員との信頼関係が築けている。
- ・『ファミリー・サポート・センター』の年2回交流会ではヒヤリハットについて情報交換を行った。預かる子どもの年齢で、気を付けなければならぬ内容が違うことなど共有できた。
- ・『ファミリー・サポート・センター』で年1回発行している「ファミサポ通信」は、主管課を通して緊急サポートセンターのチラシも一緒に会員向けに発送している。
- ・富士見市、三芳町と普段から活動についての意見交換や会員について連携を行った。

③その他

- ・4月から新小学1年生になる幼児を対象に、入学前の3月に小学生体験を実施した。「小学生になるとできること」の共有や使用できる玩具、乳幼児室は使えなくなるもののほか、児童センターまでの行き帰りの確認についても保護者と子どもに伝えた。子どもだけの利用が可能になるため、子ども達が困った時に職員がすぐにサポートできるように利用者カードへの登録をお願いした。
- ・雨が降った翌日は屋外プレイヤードやその遊具が濡れている為、職員が水かきや拭き上げを行い、安全に開放できるように努めた。常に、温度や雷注意報、PM2.5、光化学スモック、害虫などに気を配り開放した。
- ・SDGsを意識した運営を心掛けた。館内に児童センターで行っている取り組みを掲示したり、制作の事業では牛乳パックやトイレットペーパーの芯などの廃材を利用した。節電にも取り組み、来館のない時間帯には使っていない部屋の電気を消した。東西所長はSDGsのバッジを着け、SDGsについて子ども達や保護者が興味を持てるよう活動の周知を行った。
- ・子育て支援センター主催の「子育て支援者研修」に東西児童センターで参加し、子育てについてより深く学んだ。
- ・ふじみ野市内で活動している子ども食堂「にこまる」に出張し、制作の事業のお手伝いをした。毎月児童センター便りと子ども新聞の配布依頼をしている。

(2) 管理業務実施上の課題

東児童センター

- ・屋外プレイヤード開放や換気による空調の不具合が多い。特に暑い時期は定期的にロビー空調の水抜きを交流プラザへお願いした。
- ・6月頃からカメムシの侵入が多くある。多い時は10匹以上の侵入があり職員が捕獲している。

西児童センター

- ・経年劣化による施設の破損や故障が多くなってきた。開館前の点検や30分点検等で、設備に問題が無いかを確認し、あった場合は速やかに利用者の安全確保及び大井総合支所総務係へ報告を行う。
- ・交流コーナーの天井に雨漏りが発生したため、大井総合支所と建設会社による修繕を行った。雨天時には天井の点検も実施する。

(3) 次年度以降の取組

- ・引き続き、月1回実施している避難訓練を児童センター便りや館内ポスターで周知していき、利用者に参加を促していく。
- ・児童センターでボランティア活動ができることを館内ポスターやチラシ、声かけなどで周知していき、中高生の活躍の場を提供する。
- ・児童厚生員や地域子育て支援員、発達支援員等の講習を積極的に受講し、職員の知識の取得に努める。